

# 都立国分寺高等学校の学力検査問題と大学入試問題の対照表

【凡例】



- ・ ・ ・ 問い方が類似している部分。
- ・ ・ ・ 選択肢等が類似している部分。
- ・ ・ ・ 正答。

国分寺高等学校

3

平成14年 大学入試センター試験

【リード文】三沢伊兵衛は武芸に熟達した武士であったが、職をやめて新たな仕官を求めて妻のおたよと旅をしている。仕官の話は幾度かあったが、他人を押しつけることができない性格が災いしてまとまらないまま、ある宿場にやってきた。そこで、長雨に降り込められて困っている同宿の人々のために、妻に止められていた賭け試合をして金を稼ぎ、ごちそうをする。その後、偶然に遭遇した果たし合いを仲裁したことで、当地の藩の家老青山主膳に認められた。そして殿様の武芸の教育係を増やすということで、仕官の声がかかった。

【リード文】三沢伊兵衛は松平家に代々仕える武芸に熟達した武士であった。人間関係に行き詰まって職を辞し、新たな仕官を求めて妻のおたよと旅に出たが、幾度かあった仕官の話もまとまらず、ある宿場にやってきた。長雨に降り込められて困っている同宿の人々のために、妻に止められていた賭け試合をして金を稼ぎ、ご馳走をする。その後、偶然に遭遇した果たし合いを仲裁したのを、その地の家老青山主膳に認められ、仕官の話が進んだ。

【問2】大六は冷やかに続けた、とあるが、牛尾大六がこのような態度をとったわけを説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 武士として許されないことをした伊兵衛には同情の余地がないと  
考え、気遣いなどする必要がないから。

ウ 宿屋があまりに汚いので耐えられず、一刻も早く立ち去りたいため余分なことを言いたくないから。

【問3】傍線部B「このまえのときよりずっと切り口上で云った」とあるが、牛尾大六がこのような態度をとったのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

② 宿屋があまりに汚いので耐えられず、役目上の用事にすぎないことは手早くすませて立ち去りたいから。

⑤ 武士には許されないことをした伊兵衛に、仕官ができなくなったことを伝えるのは、事務的な形で行えばよいから。

【問3】いいえ有難く頂戴いたします。とあるが、このときのおたよの気持ちを説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 仕官を期待させておいて、それを今さらだめだと言ってきた主膳が金を支払うのは当然だという気持ち。

エ 賭け試合をしたことだけを理由に仕官を認めないことを、金を受け取り批判したいという気持ち。

【問5】おたよは軽い足どりで歩いていった。とあるが、このときのおたよの気持ちを説明したものとして最も適切なのは、次のア～オのうちではどれか。

ア 仕官に失敗したことでおたよに気後れしている伊兵衛を励まし、新天地での仕官への決意をあらためて促すために、ことさらに気にかけていないという姿を見せようとしている。

イ 仕官を願いながらもなかなか実現させることができない伊兵衛だが、周囲の人々を大切にす彼の生き方を認め、一緒にこれからも生きていこうという気持ちになっている。

ウ 毎回仕官に失敗しながら全く懲りずにいる伊兵衛に対して変化は望めないとおきらめ、道中の美しい風景などを楽しみに旅を続けようと気持ちを切り替えている。

【問4】傍線部C「いいえ有り難く頂戴いたします」とあるが、おたよはこの時どのような気持ちでこう言ったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

④ 賭け試合をしたことだけを理由に仕官を認めないやり方のおかしさを、金を受け取ることで訴えたいという気持ち。

⑤ 仕官を約束するような態度をとっていた主膳がそれを覆す以上は、もつと金を支払ってもらいたいという気持ち。

【問6】傍線部D「と云ってもいいと思いますわ」とあるが、おたよはなぜ伊兵衛の口まねをしたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 仕官に失敗したことでおたよに気を遣ってばかりいる伊兵衛に対して、自分が元気であることを示し、同時に新天地での仕官への決意をあらためて促そうと思ったから。

② 仕官を願いながらも他人を気遣うあまり機会に恵まれない伊兵衛に対して、人々との交流を大切にす彼の生き方に共感し、ともに生きていこうとする気持ちになっていることを表そうと思ったから。

③ 峠からの美しい風景を見てようやく機嫌を直したおたよは、その思いに気づかない伊兵衛に対して明るく元気にふるまって見せれば、彼にもその変化がわかるだろうと思ったから。

【問4】複雑な相互作用とあるが、これを説明した本文中の表現として最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア ある部分は水面に頭在化し、それより圧倒的多くの部分は、水面下に潜在している

イ テクストの文字を眼で追いかけて、その文字記号を音声から意味へ変換していく

ウ 〈始め〉から〈終わり〉にむかって線的物語をたどる

エ 意味のある部分(より重い部分)は、次第に下に沈んでいき、表層の流れの下を流れる、いくつもの別な流れの中に自らをつなぎあわせていく。

【問二】傍線部(2)で、「複雑な相互作用」とはどういうことか。次の事項があてはまる場合は○、そうでない場合は×をつけなさい。

○(a) 本に集積している言葉たちが、もう一切の意味やイメージを、自分に対して生み出すことはない。

○(b) 同じ作品を、一週間のうちに三度、四度と繰り返し読んでみると、そのときの体調や精神状態で、同じ作品とは思えないほど違った印象を受けてしまう。

×(c) テクストを眼で追い、継起的・逐次的に意味をとっていく。

○(d) 意味のある部分(より重い部分)は、次第に下に沈んでいき、表層の流れの下を流れる、いくつもの別な流れの中に自らをつなぎあわせていく。

○(e) 言葉の意味の巨大な渦が、深層から表層までをさしつらぬく形で、一種竜巻状になる。

【問6】『読む時間』の中でつくり出された意味の連鎖が、「記憶の時間」とかかわり出すとあるが、これを説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ウ テクストから読み取られた情報が、読者の「記憶」の中の様々な経験と結合し、複雑で多層的な意味とイメージを生み出すこと。

【問四】傍線部(4)『読む時間』の中でつくり出された意味の連鎖が『記憶の時間』とかかわり出すとはどういうことか、説明しなさい。

【正答例】テクストの提示する表面的な情報を受け止めるだけではなく、記憶の中の豊かな経験と結合し、複雑多層な様相を呈すること。

【問3】 こういう回帰性 とあるが、この場合どういうことか。次の

□ 内のように答えるとき、(A)・(B) に当てはまる適切な語句を考えて書け。なお、(A)・(B) とともに三字とする。

もといた (A) に、(B) 帰ってくること。

【解答例】 A: 吉野山 B: 何度も

【問4】 西行という魂に固有な欲求のかたち とは何か。本文中から七

字で抜き出せ。

【正答】 謎へのこだわり

【問2】 傍線部(2) 「こういう回帰性」とあるが、どういうことか。二

十字以内で、自分の言葉で記せ。

【正答例】 もといた吉野山に、何度も帰ってくること。(二十字)

【問3】 傍線部(3) 「西行という魂に固有な欲求のかたち」と同義の語

句を七字で抜き出せ。

【正答】 謎へのこだわり